

北地区ってこんなところ



海辺の森（島見浜）から見る夕日

本紙では、市内を9地区に分けて、地域の情報を年3回紹介しています。
本号では、1回目の黒埼地区に続き「北地区」を紹介します。



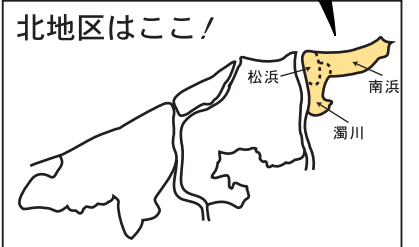
新潟東港

阿賀野川

阿賀野川

太夫浜球技場

天然芝2面を有する広大なグラウンドは、日本サッカー協会の規格に適合した広さを持ち、ラグビー場としても利用できます。社会人をはじめ学校や地域のクラブ活動などに幅広く利用されています。



北地区はここ!

濁川ふれあい農園

北地区だけでなく、遠方から訪れる利用者も多く、明るい日差しの中で野菜や花づくりを楽しんでいます。また、隣接する濁川公園、自然生態観察園、サン・スポーツランド濁川と合わせて市民の健康、憩いとふれあいの場となっています。



海辺の森

島見浜の保安林に5にわたり整備された海辺の森。新潟港3代目の灯台のデザインを模した展望塔やハマナス園、トリムコースのほか、テントサイト32カ所を備えているキャンプ場は、市内をはじめ県内外からの利用客でにぎわいます。



阿賀野川ごさげや花火

毎年8月25日に、2尺玉やスターマイン、水中花火など約4000発の花火が、阿賀野川の夜空を彩ります。県内はもとより関東や東北方面などから訪れる人もおり、例年約9万人の観客の目を楽しませてくれます。

北地区豆知識

北地区は松浜・南浜・濁川の3地区から成り立ち、昭和29年に新潟市に合併するまではそれぞれ松ヶ崎村(同年4月5日合併)・南浜村・濁川村(同11月1日合併)として、北蒲原郡に属していました。松ヶ崎浜村は現在の下山地内も含み、新潟空港も松浜町という住所から分かったおり同村にありました。北地区で行われた歴史的な大工事をふたつ紹介しましょう。

松ヶ崎掘削

江戸時代の中ごろまで、阿賀野川は今の通船川の所を流れていました。当時新発田町の北側に、加治川の支流境川が流れ込む越後最大の潟、紫雲寺潟がありました。この潟の干拓が計画され、境川が閉め切られることになりました。これにより加治川の水量が増えることになり、その水をどう処理するかが問題になりました。そこで、当時加治川は阿賀野川に注いでいたため、加治川の水量が増え阿賀野川が増水する分水を海へ落とす掘削を掘る



信濃川河口以北の現在の市内の主な河川

その後商業港としての西港、工業港としての東港という役割分担のもと、港湾施設が整備され、平成8年には国際海上コンテナターミナルが完成(現在水深12メートルで供用)しました。現在では、年間約700万のLNG(液化天然ガス)が輸入され、日本海側最大のエネルギー基地となっているほか、コンテナ荷役用のガントリークレーンも3基あり、釜山・東南アジア・中国・北東アジア・トランスシベリアの定期コンテナ航路による貨物取扱量も年々増えています。市では、市内の住工混在を解消し工業拠点を整備しようとして、平成元年から東港に隣接する地区を東港工業団地として開発。現在86区画中82区画が分譲済みです。